

大人の部活動。読売新聞が応援！

# わいず倶楽部

## くシニア

田中学校の合言葉は「生徒は街人々は学校へ」。職業体験受け入れや授業のサポート、内の緑化など、幅広い分野で、或のシニアたちが活躍しています。



作業の手を休め、生徒たちと談笑する村嶋さん(中央)ら(大阪府池田市の市立池田中で)

# 校庭整備・授業支援任せて

会の問題について、大人と子どもが一緒に考える「よのな科」という授業を行っている。村嶋さんらも参加する。「尊厳死」をテーマにした

「何が採れるんですか？」「ブロッコリーやエンドウマメ。新鮮やから、うまいで」  
3学期も終わりに近づいたある日。池田中の中庭にある畑で、村嶋邦彦さん(71)らが休み時間中の生徒と談笑していた。

現在は畝が整えられ、季節ごとに野菜が実っているが、2年前までは雑草が伸び放題だった。長年放置されてきたこのスペースを、学校側の呼びかけに応じた村嶋さんら近くの住民が整地し、土を入

れ替えて復活させたのだ。現在も、この「畑プロジェクト」の約10人がほぼ毎日、野菜の世話をし、周囲の草取りや落ち葉拾いにも汗を流す。「お弁当を食べている女子に、もぎたてのトマトを差し入れたりもするんですよ」とメンバーの女性は笑う。

ボランティアの仕事は、校庭の整備だけにとどまらない。池田中では、簡単には答えが出せない社教える側にまわることもある。石油会社などで研究、開発に携わり、「退職後は、自宅で理科教室を開きたい」と考えていた井原博之さん(72)は昨年9月の土曜日、池田中で実験教室を開いた。「DJ(土曜授業)」と呼ばれる行事の一環として、備長炭やアルミ箔、キッチンペーパーと食塩水を使って電池を作った。

電極をつなぎ、電子オルゴールから曲が流れると、参加者は大喜びだった。「自分で触って確かめることで、科学の楽しさを実感してもらえる」と手応えを感じた井原さん。10月には自宅での教室をオープンさせるが、中学校での指導も続けるつもりだという。

池田中が、地域との連携を進め

- 健康
- 旅&趣味
- 暮らし

# ボランティア

(火曜日に週替わりテーマで掲載)

大人の部活動。読

# わいすイ

## 地域の学校 輝くシニア

もうすぐ新学期。「地域とともに、子どもたちを育ていきたい」との思いから、ボランティアを積極的に受け入れる学校が増えてきました。

その一つ、大阪府池田市の市立

池田中学校の合言葉は「生徒は街へ 人々は学校へ」。職業体験の受け入れや授業のサポート、校内の緑化など、幅広い分野で、地域のシニアたちが活躍しています。

に野菜が実っているが、2年前までは雑草が伸び放題だった。長年放置されてきたこのスペースを、学校側の呼びかけに応じて村嶋さんら近くの住民が整地し、土を入

### 現場と住民つなぐ「本部」

文部科学省は2008年度から、教育現場と、ボランティアをしたい地域住民とをつなぐ「学校支援地域本部」の設置を推進している。同省の担当者は「社会全体で子どもを育て、大人にとっても生きがいのある場となれば。希薄になりがちな地域のつながりを取り戻すことも目指しています」と、その意義を説明する。

現在、全国570市町村に2659の本部が設置され、約7000校のボランティア活動をカバーしている。ただ、本部組織の運営方法は地域によって違い、活動内容も図書館の運営や絵本の読み聞かせなど、学校によって様々だ。本部が設置されていない場合もある。まずは地元の教育委員会に問い合わせたい。



作業の手を休め、生徒たちと談笑する村嶋さん(中央)ら(大阪府池田市の市立池田中で)

池田中が、地域との連携を進める「マイタウン・プロジェクト」に取り組み始めたのは5年前から。教師とともにボランティアが担当する「DJ」も、小学校の復習から高校受験対策、英検対策まで、多彩な内容をそろえている。クラブの指導や、学校行事にも地域の人々の姿がある。

笠井賢治校長は「親や教師に反抗しても、近所のおっちゃん、おばちゃんには素直になれる、という面が中学生にはある。学校でのボランティアの役割は、その意味でも大きい」と話している。

り、「退職後は、自宅で理科教室を開きたい」と考えていた井原博之さん(72)は昨年9月の土曜日、池田中で実験教室を開いた。「DJ(土曜授業)」と呼ばれる行事の一環として、備長炭やアルミ箔、キッチンペーパーと食塩水を使って電池を作った。

電極をつなぎ、電子オルゴールから曲が流れると、参加者は大喜びだった。「自分で触って確かめることで、科学の楽しさを実感してもらえ」と手応えを感じた井原さん。10月には自宅での教室をオープンさせるが、中学校での指導も続けるつもりだという。